哲学少女～shouldn't be fly～

七七日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
哲学少女～ｓｈｏｕｌｄｎ'ｔ　ｂｅ　ｆｌｙ～

【Ｎコード】
Ｎ０３７４Ｐ

【作者名】
七七日

【あらすじ】
彼女は『哲学少女』
僕は今日も彼女の視る世界に意識を傾ける。

僕の隣の席に座る彼女は頬杖をついて窓の外を眺めている。
哲学少女と僕は内心でそう呼んでいる。
哲学少女と言っても彼女は別段哲学に詳しいわけではない。ソクラテス、アリストテレス、プラトン、なんて名前は彼女の口からは出てこない。
ただ彼女の行動、言動が哲学的――――悪くいえば奇妙、なのだ。
だから心ない一部のクラスメート達からは良くない綽名がささやかれている。
確かに彼女は変わっている。だけど僕はそんな彼女にどこか惹かれているのだ。それは恋とか愛とかそういう類のものではなくもっと崇高な感情。初めてイエス・キリストを目の前にした人々、とは少し言いすぎかもしれないが、そんな感じなのだ。
だから僕は敬意をこめて彼女をこう呼ぶ。
『哲学少女』と

放課後、哲学少女は授業が終わっても中々席を立たない。今は机に突っ伏して眠っているかと思えば右足はトントンと何やらリズムをとっている。
十数分後クラスのみんなは、部活、帰る、遊びに行くと、三々五々に教室から去っていった。
僕は明日の予習、という名目で彼女と同じくまだ席に座っている。英語の和訳をしながらも意識は常に隣にいる彼女に向いていた。
予習もそろそろ終わりに近づいたころ、彼女は予備動作なく急にガバッと体を起こした。
「例えばさ――――」
『例えば』それは彼女の口癖の一つだ。
僕に話しかけている、のだと思うけれど彼女の視線は前の黒板の

方に注がれている。これはいつものことだ。哲学少女は人の目を見て話をするということをしない。
「例えば人が空を飛べたら……」
なんて幼稚なことをいう日もある。
一応人は空を飛べるには飛べる、飛行機、ヘリコプター等の鉄の塊に包まれればだけど。
そう僕が言ったら。
「違うよ。あんな制限された飛行じゃなくて、もっと自由に。タケコプターなんて言わないからせめて車か、原付レベルの自由度で空を滑空できたら……」
そこで初めて彼女は僕の方を見た。その瞳は『どう？』と意見を求めている様だった。
僕は素直に今より便利でいいじゃない、と応えた。
「ふむ」
僕の言葉を聞いた彼女はそう言って黙り込んでしまった。
彼女は窓の外を見ている。
夕日が赤みを増している。部活動の掛け声が聞こえる。下校中の生徒がみえる。遠くでカラスが飛んでいる。
僕の目に見えるのはせいぜいその程度だけど。彼女の目にはきっと違うものが浮かんでいるのだろう。
「人が空を飛べたら、まあ法律が色々変わるよね、道路交通法ならぬ空路交通法みたいな。信号ができて、標識ができて、横断歩道は、できないか。それこそタケコプターがないと。」
僕にも少しは想像できた。今の道路とそう変わらない彼女の思い描く空の形が。
「空だと事故も増えるだろうね。いや、事故の数自体は変わらないかもしれないけど死亡率は高まるだろうね。なんたって下は地面だし。落ちたらもう終わり。エンストしただけで死んじゃうね」
果たして空飛ぶ車がマニュアル車と同じ様にエンストするかどうかはわからないけど、確かに空だと危険は増えると思った。

「空で事故を起こしたら地上にも迷惑がかかるよね。車の残骸とか、はたまた人が降ってきたり。駐車場はどうだろう。空で停めておけるとは考えにくいし、一旦地上に降りるしかない。そしたらただでさえ駐車場が少ないのに空の車までカバーできるのだろうか。そういえば犯罪も増えそうだ……」

彼女は自分の世界に入り込んでしまったようで、もはや僕には聞こえない小さな声でブツブツと空についてのダメだしを続けている。

数分後、彼女は天井を仰ぎみて言った。

「結果」

僕は彼女の導いた結論に耳を傾ける。

「人は空を飛ばない方がいい」

危ないから？　と僕は言った。

彼女は少し考えるそぶりを見せたそして、

「せめて空には、夢を残しておきたいから」

席を立つと同時にそう言った彼女はスタスタと教室を出て言った。

哲学少女は基本手ぶらだ。

（後書き）

読んでいただきありがとうございます^^
感想などいただけると幸いです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0374p/

哲学少女〜shouldn't be fly〜

2010年11月21日03時04分発行